



みごみこ



カッコいい! もいいけど、
オモシロイ!!がいい

- みまたの目指すイメージってどんなのがよいか?
- 目指す方向性として、カッコイイ!とはちょっと違うかも。
- 都城出身者からみて、高校生の時に三股中学校出身の子達と一緒に。パワフルさ元気に圧倒された。いざ話してみると、オモシロイ人が多かった。
- 家の中では元気だけど、引っ込み思案な人が多い。自己主張が強すぎず、奥ゆかしさもあるのがみまたの人。
- オモシロイ人が沢山いるのに、ファーストインプレッションで伝わらないのがもったいない!
- 内に秘めたオモシロイ人や若い人達が輝ける、活躍できるようなまちになるとよい。
- みまたの目指す方向性としては、「ワクワクオモシロイ」がしっくりくる。

みごみご・じっぺできるまち

- オモシロイ人、飾らない人が輝けるまちを目指すときに、みまたに来ると「みごみご・じっぺ」できるということが定着するといふ。外見の美しさに加え、心と身体、健康も含めて磨くという意味や、みまたの人の内に秘めたオモシロイ部分を磨くという意味にもなる。
- まちなかでヨガをするときにも、「みごみご体操」というネーミングだとオモシロイかも! みごみごじっぺできるまち歩き、みごみごジュースなども販売できるかな。

子どもも大人も意見交換

- 三股町の特徴として、子どもたちが増えているということがスゴイ。
- 先日、三股中学校にまちづくりの授業で行った。中学生から今の仕事に就いたきっかけについて質問されてドキッとした。子ども達と意見交換することで、大人にとっても大きな気づきになると感じた。
- 子ども達が若いうちから意見が言える場をつくってあげるとよい。自分の意見や人の意見を聞きながら、共感しあえると大きな成長につながると思う。
- 三股町にはまちづくりの団体や企業がない。これからは、町民でグループをつくって、地域で楽しみながら、時には飲ん方をしながら、まちについて語り合ったり、実践したりしていくことが大切だと思う。

編集後記

現在「未来ビジョン」というものを作っています。
ミライカイギやワークショップは、将来のまちのまちなかをどのように思い描き、どのように実現するかを議論しながら進めており、実現に向けたアイデアやキーワードが続々と生まれています。まちの未来への期待でソクゾクしています。
未来ビジョンが完成したら、実現に向けて活動します。皆さんとオモシロい合いがすのでぜひ、一緒に取り組みましょう。



の顔を大事そうに思い浮かべながら、「ただ、ひたすらありがとう。」と繰り返し話した。

第4回町民ワークショップ
2022.12.8 THU
~みまたんまちなかの将来像をこころ~
第1地区分館和室

前回のワークショップで「まちなかでヨガをしたい!」という声から生まれた、まちづくりを語りながらヨガをする「まちヨガ!」を開催。ヨガで血流アップをしたあとのワークショップは、話も弾みました! 今回のテーマは、みまたんまちなかで将来大切にしたいコト、そのための具体的なプロジェクト。参加者からの意見を一部ご紹介します。

もっと三股を知ろう!

- 「みまたのまちづくり」と聞いて、子どもたちはピンと来ていなかった。三股町には山と川と家があるが、それ以外に何があるのか?と聞かれた。大人も子どもも、実はみまたのことを良く知らないし、知る機会も少ないと感じている。
- 歴史とか、文化、方言なども学べるとよい。三股弁のカルタ、三股弁で読み聞かせなどおもしろそう。
- 中学校で文化会館に行き、演劇を楽しむ授業があると聞いた。こうした取り組みは大切にしていきたい。小学校の読み聞かせも伝統になっている。

歩いてコミュニケーション

- みまたの人は普段なかなか歩かない。何か目的がないと歩かない。たとえば、「上米公園の桜を見に行こう」とか、「前目に馬がいるらしい」とか、冬はイルミネーションが綺麗とか、目的があると歩く。そういう情報を発信することもよい。
- 五本松交流拠点「歩くターミナル」になるとよいかも。そこからまち歩きや、目の前に見えている山に登るのもよい。まちをガイドして歩くツアーのようなものもオモシロイ。
- 昔は「歩こう会」や登山などを親子や学校でしていた。達成感も得られるし、歩いているときにコミュニケーションも取れる。
- 町外の方には公共の駐車場に停めてもらい、まちなかを歩いてもらうこともできそう。



みまたんまちなか

今回は「古都のオーナー」池田加代子さんを訪ねた。京都から移住して町内でお店を営んで42年。「飲んだり、笑ったり、日々いろんなことをここで勉強した。いろんな人に来てよかった。」と話す池田さんの表情から、お店で過ごす日常に、この町で暮らす人たちのドラマが確かにあったのだということを感じた。

池田さんの話には、たびたび「分かち合う」という言葉が出てくる。「苦しいときこそ、おすそ分け。やっぱり人だから、お互いを大事にしないとね。」ちょっととした気持ちのやり取りが、地元で愛され長くお店を続けていく秘訣なのかもしれない。

しかし、この冬、地元で惜しまれながらお店を畳んだ。ここで過ごした時間や出会った人たちの顔を大事そうに思い浮かべながら、「ただ、ひたすらありがとう。」と繰り返し話した。

みまたん♡ミライカイギ1月定例会

これまで、みまたのことを知ってほしいという意見が沢山出てきたが、それは過去のコトだったり、忘れ去られそうなことだったり。そうしたことを学ぶ機会がつけられると良いなと感じる。学び合いを通じて、人と人が繋がっていき、新しいことが起こるのだと思う。

小学校でもみまたについて学ぶ時間があるが、昔は地域の中で学ぶことができた。近所のおばあちゃんから何度も同じ話を聞いたりして根付いていくのだと感じる。コロナでweb会議が身近になったおかげで、対面でしゃべることの重要性を感じることができた。これからの未来は、地に足をつけることがよく、なことが大切になってくると思う。「1対1の関係性」を大切にとか、「懐かしい未来」とか、未来だけど懐かしいが手掛かりになってくると思う。



これまでの話を振り返ってみても、出会って、しゃべって、一人ひとりが目の前の人を大切にすると、いろいろなことがたくさん出ていた。これが理念につながると思う。

「ワクワクが繋がる」というのも良い気がする。人と人、出会い、時間、いろいろなものがある。

ワークショップでも出ていた、「オモシロイ」「もよい。お互いにつながる」という意味で「オモシロがる」という言い方の方が良い。オモシロがるって聞くと、こちらがオモシロくなる。みんなが新しいチャレンジをするときに、オモシロがるって人がある。と、そこからつながっていくと思う。

「オモシロがる」「オモシロあおう」というのはどうか。仲間内だけではなく、第三者がいてお互いにオモシロあえる、つながって広がっていくイメージになる。

想い描く将来像がいくつあっても、皆でオモシロあいながらやっていこう!ということだと、多くの人が自分事として捉えてくれると思う。

これまで沢山のアイデアを出し合ってきたので、私たちもオモシロあいながらやってみよう!

新しいミライノカタチ

年末年始の近況報告からはじまった1月定例会。年末はハートの絵を描くワークショップや、文化会館20周年記念事業「しあわせなら手をたたこう」の公演、年始はおねっこ、消防出初式など、少しずつイベントや行事が復活してきたことを実感しました。今回のミライカイギでは、未来ビジョンに掲げる想いや合言葉、未来のカタチについて意見交換しました。

“オモシロあおう!”を合言葉に

「ふるさとまつり」で町民の皆さんが描いてくださったはあと♡の絵が五本松団地跡地に飾られました。足元は、前目温故知新の会協力のもと、竹ブランチに植えられたビオラが彩りを加えていました。はあと♡の絵はその後、「しあわせなら手をたたこう」の舞台にも飾られました。ちなみに、舞台の中でもはあと♡の探し方を教えてくれる河童の校長先生がいました! はあと♡が少しずつ、つながっています。

繋がるはあと♡

ミライカイギがきっかけとなり、期間限定のはあと♡スポットがいくつか出現しました!

みんなで描いたはあと♡の絵
(主催 三股町まちづくり研究会)

「ふるさとまつり」で町民の皆さんが描いてくださったはあと♡の絵が五本松団地跡地に飾られました。足元は、前目温故知新の会協力のもと、竹ブランチに植えられたビオラが彩りを加えていました。はあと♡の絵はその後、「しあわせなら手をたたこう」の舞台にも飾られました。ちなみに、舞台の中でもはあと♡の探し方を教えてくれる河童の校長先生がいました! はあと♡が少しずつ、つながっています。

三股小学校の交差点にはあと♡の花壇が出現中

ミライカイギメンバーで、ポケットパークにはあと♡の花壇を作りました。初めての取組で、なかなか思うようなはあと♡をつくるのができませんでした。が、これがらもって素敵な花壇にできるといいなあ。取組は続きます。

(写真は表紙裏表紙をみてね!)

みまたんまちなか通信

Vol.4
2023.03

発行「みまたん♡ミライカイギ」
事務局 町企画商工課内
問い合わせ: 0986-521120

Instagram
始めました



MIMATANMIRAI